

『式辞』

正門の桜のつぼみもようやくふくらみ始め、本格的な春の訪れが間近に感じられるこの良き日に、晴れの門出を迎えた3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。（卒業生に礼）

新型コロナウイルスとの闘いが3年を超え、ようやく出口が見えてきたとはい、まだまだ制約が残る中、多くの皆様方の、ご理解ご協力を得て、このように第七六回卒業式を実施できたことに感謝いたします。「ありがとうございます。」

さて、今ここで義務教育九年間の終了を意味する卒業証書を授与された七六期生の皆さん、今日から、この伝統ある矢田中学校の卒業生として誇りを持つて歩んでいくください。

今、君たちが生きていく時代を思う時、現在も進行しているウクライナでの戦争と、3年目を超えたコロナとの共生、そして、トルコで発

生した大地震によつて得られた教訓を、改めて考えてみたいと思います。

いうまでもなく戦争は最大の人権侵害です。この瞬間にも、罪のない市民が命を失っている事に大きな憤りと悲しみを覚えます。ウクライナは、かつて、我が国を含め多くの犠牲が払われた2つの世界大戦の引金となつた東ヨーロッパに位置しています。この戦争は私たちと関係のないことではありません。今、私たちにできる何かを考える必要があると思います。私たちが3年間通して学んだ「いじめ」や「差別」を許さない人権教育は、人と人が互いの違いを認め合い、共生の道を切り開くものです。今後、再び戦争という悲劇につながる道を歩まないための道標となるでしょう。

また、コロナと向かい合つたこの3年間、私たちは多くの教訓を得ました。波のように襲い来る流行に對して、どのように対峙していくの

か。様々な制約に対してどのように工夫しながら、日常を守つていけるのか、私たちの知恵と行動が試された3年間でした。しかし、私たちはすべての行事を実施し、この試練を乗り越えてきました。昨日より、政府の方針でマスクの着用が個人の判断に任されることとなりました。しかし、コロナは消えてなくなつたわけではありません。これからも各自の判断と行動が大切だ、ということを忘れてはいけません。

そして、2月に発生したトルコでの大震災は、5万人を超える多くの人の命を奪いました。私たちの住むこの大阪も近い将来、大地震に襲われるといわれています。パンデミックも大災害の一つとすれば、私たちが自らの命と大切な人の命を守るために考え方行動すべき時は、今なのかもしれません。

さて、七六期生の皆さん、皆さんと私の出会いは3年前の入学式でした。マスクで覆われ、

表情が読み取りにくい中、6月から始めた学校生活では、トラブルの絶えない毎日でした。しかし、様々な行事や人とのかかわりの中でも、皆さんは着実に成長していきました。コロナとの共生の中、積み重ねてきた部活動をはじめ、楽しみにしていた学校行事の全てが何らかの制約を受けました。しかし、そのような状況下でも工夫して実施された修学旅行は思い出に残るものとなりました。私も皆さんと共に下った吉野川でのラフティングは忘ることはできません。3年生の体育大会での団結や文化祭での個性あふれる表現など、見るものに感動を与えた。逆境を乗り越えてやり遂げた経験は、きっとこれから皆さんの人生の大きな力となることでしょう。

今日お別れに際して、このように先が見通しにくい時代の中、人類の未来に希望を求めて挑戦する人を紹介したいと思います。今回14年

ぶりに実施された宇宙飛行士試験にみごと合格した「米田あゆ」さんです。米田さんは、東京大学医学部を卒業後、現在は日本赤十字社医療センターの外科医として活躍しています。中学・高校時代は、お隣兵庫県の学校でテニスに打ち込み、昼も夜も時間があれば練習をし、日焼けで真っ黒だったそうです。また、ボランティア活動にも熱心で、ハンセン病の施設を訪れたり、世界の紛争地域の子どもたちに文房具を贈る活動に参加したりしていました。何事にも真剣に取り組み、チャレンジ精神旺盛な生徒だったそうです。米田さんの挑戦はコロナ禍、戦争や災害の足音が聞こえるこの時代において、何事にも真剣に取り組み、人類の幸せな未来を信じてチャレンジする姿を示してくれています。次世代と共に生きる皆さんに自分を信じ夢に向かって挑戦する勇気を促しています。皆さんの未来は皆さん自身の行動に託されています。「明

けない夜はありません」君たちと君たちの未来に幸あれ！「ご卒業おめでとうございます。」

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。人生で最も多感で、著しい成長期にあるお子様が卒業証書を受け取られた姿をご覧になり、感慨もひとしおとご推察いたします。お子様たちは、この三年間で、人の気持ちを思いやれる立派な人間に成長しました。表現が下手な子もいるとは思いますが、ここまで育ててくださった保護者の皆様への感謝の気持ちを、今、全員が胸に抱いていると確信しています。

この三年間、本校のために多大なるご支援、ご協力を賜り、全教職員になり代わりまして、あらためて厚くお礼申しあげます。「ありがとうございました。」（礼）

では、卒業生の皆さん。いよいよお別れの時です。健康に十分注意して、矢田中学校での三

年間を誇りとし、大いに活躍されますよう、心
よりお祈りして、「式辞」といたします。これか
らもそれぞれの道で頑張つていってください。

令和五年（2023年）三月一四日

大阪市立矢田中学校長 西川 祐功